

最先端の教育を久喜市で

教科の枠を超えた学び

未来を切り拓く能力を養う教育

久喜市では、平成30年度から、子どもたちが未来を切り拓くために必要な能力を養うための教育を、地域や社会と連携し推進してきました。そして、市内全小・中学校に一人一台タブレット端末（クロームブック）が配備された今、これまで実現できなかった様々な新しい取り組みを進めています。今月は、久喜市で行われている最先端の教育をご紹介します。

ポイントは「ワクワク」

これまでの教育は、いかに知識を積み重ねるかが重要視されてきました。しかし、先を見通すことが難しいこれからの時代、必要となるのは主体性の発揮だったり、創造的に考える力、批判的に物事を捉える力、人と協働していく「資質」といったような「汎用的な能力」です。

汎用的な能力を身につける教育のポイントとは、子どもたちの「ワクワク」を大事にすること。子どもたち自身が目的を持って、課題解決のため知識を習得していく、自ら学びに向かっているという学習の中で、汎用的な能力が育まれます。そのためにも、子どもたちがワクワクして協働的に取り組んでいけるような学習を、学校は提供していく必要があります。

教科横断的な学習

知識の体系によって整理された従来の教科の枠を超え、子どもたちの「ワクワク」を核とした学びが「STEAM化された学び」です。その取り組みは、現在様々な企業と連携して行われています。その一例を次ページで紹介いたします。

子どもたちのワクワクを呼び起こす



汎用的な能力

を持つ人材を育成

- S**cience (科学)
- T**echnology (技術)
- E**ngineering (工学)
- A**rt (芸術)
- M**athematics (数学)

社会とのつながりが情熱を燃やす

子どもたちのワクワクは情熱を燃やすにはどうすればよいか。それは、実社会とつながっていることが重要です。「実際に自分たちがやっていることが、自分たちの生きている社会とつながっているんだ」という実感が、子どもたちの情熱を燃やしていく。例えば、STEAM教育はSDGsと親和性が高く、目的としてSDGsが設定されることが多いのですが、それこそまさに社会みんなで解決していこうとしていることに、子どもたちが主体となって参画しているのです。

そして、これからの時代、創造的に課題解決をしようとしたとき、科学技術は必須です。そのため、子どもたちには最先端のテクノロジーを活用した学習活動を提供する必要があります。市では積極的に企業と連携し、最先端の学びの環境を整えています。



久喜市教育委員会指導課
指導主事兼主幹兼GIGA
スクール推進室長
かわしま なおゆき
川島 尚之さん